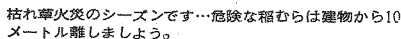


287



稲むら家から十トメル離して

としても火災シーズンは近づき増すばかりです。

また、消防部では、火災の危険性がある粗粒や、枯れ草の刈り取りを呼びかけている。台風の恐れ粗粒や粗粒の刈取りを調査し、市シーズも意識、農業者は米の収穫期にもなるが、枯れ草粗粒を刈取るとともに火災予防危険なものを刈取るように災害発生後は、火災告、枯れ草に火災の防ぎを強、働き生住数の二割前後までは、燃焼かけの方針です。次々として減少するところがあるせん。特に、草は、刈取って焼捨ててなる最善の郊外における草の嵩は防火に、種間的協力をお願いしています。すまじ、雑草を刈むのが主です。

地にはいこみ、その危険性は「枯れ草が燃えたとき、付近の建物

秋の火災

予
防
運
動

十一月二十六日から十二月二日

——全國統一標語——

月15日。

ハガキは、訂正して。

壁の診受率低破れぬ

結核で死亡22人も

幼児と四十歳代に多い患者

民生課報告の結果は、七月から八月にかけて延べ三十三日間五八八名病室に在りて健康診断を受けた。この健康診断は、学校や助産所、定期診察を受ける市民を以て主とし、七月の下旬より八月の中旬まで行われ、延べ三千四百五十人三百人に呼びかけて行なひました。これに対して受診者は五千九十九人（受診率二一・七％）で、昨より八百四十八人の増減あり、受診率も二四・四割減少するといふ結果に格別の一変にも、低い受診率は遺憾を感ぜざるまでもない。受診した少年を年齢別にみると、五才未満児五百五人（前比十六・六増）、三歳前八百九十四人（二百六十二減）、三才一才以上四百二十六人（二百六十一人減）との、幼児にわずかに増加したので對して、今年冬期の不登校が目につきます。しかしこれも、在宅育兒の数字で、学校へ社会へ退きなると檢査を受け得た市民九千六百十人（推計）と、今回の同檢診参加者五千九十九人を合算すると、健康診断受診者の總数は一万二千六百六十人となり、市民全体の受診率は七・七％に及び、健康診断不参加は八・一〇％約四万人となります。

[illegible]

た。たゞ、この病は早期発見が重要なので、おとなは、積極的に、年に一度の健康診断に参加するように努力すべきです。

ことと発見された肺がんの人は、ほとんどに入院、手術しました。経過は順調と云えられます。来年も七月、八月に健康診断を巡回します巡回方法までご意見がありましたら衛生課へお聞かせ下さい。

青色申告制度
簡素化される

毎日の取引を記帳し、その総額
によつて、正しく税金を計算する
人に、税金を軽減したり、有利な
取扱をする方法として、青色申告制
度があります。

今回の税法改正によつて、昭和
四十二年分から、青色申告の個人

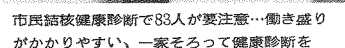
天時、水たまりなどを通行するとき
必ず徐行し歩行者や他車に迷惑が
かからないようにしましょう

たまりをかまわずにスピードを出し
停留所で乗りもの待ちの歩行者や通
りの歩行者にドロをはねて気がつか
ないで平然と運転しているドライバー
しかけますが、これは厳に慎しみな
う。

人、経過観察中の者百六十八人、
で放逐されたもの者九百七十八人、
百八十八人、処置結果不明が百
八人もいます。放逐不明のものが
は百五十八人になり、しかも
の数字は、保健所に登録されい
る者についてだけで、健康診査を
受けない約九万人の国民のなか
には、なお猶予の患者が少なく
ないと思われるが、昨
年度結核について死した市街に
二千人、かつて區病とて盛んな
時代代わられれば驚かぬと盛ん
はえ、病が、手やれにれば
はやの死に至るもの、とい
うことを裏づける数字がいまし
よ。

に捨てなければなりません。

今回の一般市民難民診断によつて、八十二人の人が精密検査を受けるよう勧告され、うち休養治療



下旬に請求手続
きの巡回説明会

引き揚げ者特別交付金

福祉事務所は、引き揚げ者と引
き揚げ者の遺族に対する特別交付
金請求手続等の説明会を開きます
引き揚げ者が、終戦時に国外に
を渡した者です。

者が申告するよう呼びかけている。

運転
 雨天時の道



29日に年末調整説明会

平塚税務署は、昭和四十二年度の年末調整説明会を次のとおり開催します。

室

郵便物は

新住所で

ことしも市の一部に住居表示、
区画整理による町名、地番号の変
更が行なわれました。

42

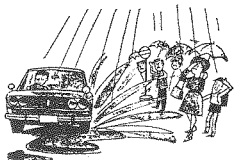
42' 交通安全写真を募集

- 課題
交通安全をテーマに自由作品
- 募集規格
カラーはハッチ以上
白黒は四ッ切
- 締め切り
昭和43年 1月20日
- 応募先
横浜市中区日本大通1
神奈川県企画調査部交通安全対策室



安全運転手

雨天時の運転は



290

292